

進化する農大

～農業大学校から農林大学校へ～

山形県では、豊かな森林資源を「森のエネルギー」、「森の恵み」として活かし、林業振興と地域の活性化を図る「やまがた森林（モリ）ノミクス」を推進しています。

この取組みを支える林業の次世代リーダーを育成するため、平成28年4月に学校名を山形県立農林大学校に改称するとともに林業経営学科を新たに開講し、県内外からあわせて15人の学生が第1期生として入校しました。

既存の農業系学科は、稲作・果樹・野菜・花き・畜産・農産加工の6学科に細分化されており、それぞれを専門とする教授が担任として2年間教えるほか、学生指導（進路・生活など）も行っており（進路・生活など）も行っております。林業経営学科も同様に、森林情報や高性能林業機械などの特に専門性の高いものを除き、樹木、造林・育林、育種、森林病害虫、森林計測、森林経営、木材利用、山菜・きのこ、森林政策、などの多岐にわたる範囲の科目を担当が教えています。

林業経営学科では、これらの各分野に関する幅広い知識や技術と高い専門性を備えた地域の森林・林業を担うリーダーや、地域の森林経営をプランニングできる経営

力を備えた人材の育成が目標です。専門科目の大半を自ら教える担任の責任は非常に大きいですが、その分、学生と接する時間が多く確保され、コミュニケーションを通して信頼（師弟）関係が醸成されるのが本校の特徴といえます。

本県では、木材生産量を32万㎡（H26）から57万㎡（H31）に増加させることとしております。県内の木材需要は、木質バイオマス発電施設や大型集成材工場の着工・稼働が進み、林業の現場からは即戦力となる人材を育成する本校への期待が大きくなっています。

この10カ月の間には、講義や実習のほか前後期の各10日間の先進農林業者等体験学習（インターシップ）も行われました。学生達は県内6つの森林組合において、森林経営計画の図面作成補助や測量補助、チェーンソーの取扱いを経験させてもらったほか、高性能林業機械による伐木造材作業など、各組合の業務内容に応じてさまざまな業務を経験し、充実した体験学習となりました。

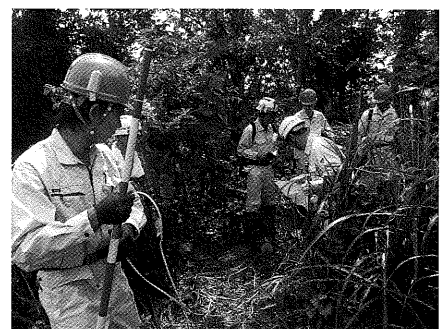
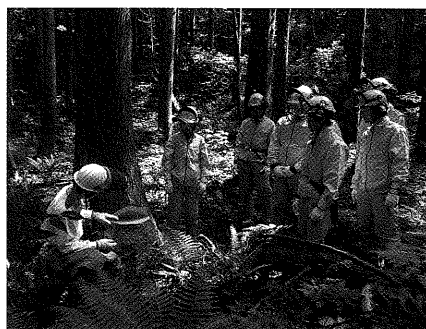
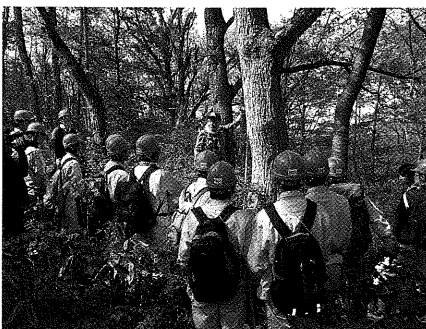
後期に実施した間伐実習では、現地踏査、測量、製図、林分調査、密度管理、選木、刈払い、伐採、玉切りまでの一連の作業を実習で

実施しました。

森林・林業を学ぶためには、さまざまな分野について理解を深める必要がありますが、実技の習得には講義においてその仕組みや目的を十分に理解する必要があります。講義において知識を深めたとしても、実技を伴わなければ実践的とは言えません。そのため、カリキュラムの詳細設定にあたっては、講義と実習のバランスを大切にし、「知識×技能＝技術」を基本に学習を進めていきます。



林業経営学科1期生15名



林業経営学科実習